令和6年度 学校評価結果報告

1 調査内容 小学校16項目、中学校17項目の質問に対して、次の4段階で回答をいただいた。

A と思う	B ある程度 と思う	C あまり 思わない	D 思わない
-------	------------	------------	--------

	評 価 内 容	A	B	C	D	無	A と思う	B 大体 と思う	C あまり 思わない	D 思わない	無回答
1	本校の子どもは、あいさつができています。	7	9	8	0	0	29.2%	37.5%	33.3%	0.0%	0.0%
2	本校の教職員は、生活・行動面の指導を適切にしている。	4	15	4	0	1	16.7%	62.5%	16.7%	0.0%	4.2%
3	学校は、子どもに道徳性を育成するため取り組んでいる。	4	17	3	0	0	16.7%	70.8%	12.5%	0.0%	0.0%
4	学校は、いじめやのない学校づくりに努めている。	7	12	5	0	1	29.2%	50.0%	20.8%	0.0%	4.2%
5	家庭で、人権問題や学校での人権学習について話し合うことがある。	3	12	5	3	0	12.5%	50.0%	20.8%	12.5%	0.0%
6	学校は子どもと向き合い、子どもや保護者からの相談に丁寧に対応している。	6	14	4	0	2	25.0%	58.3%	16.7%	0.0%	8.3%
7	学校は教育方針、家庭への連絡、情報提供に努めている。	8	13	3	0	0	33.3%	54.2%	12.5%	0.0%	0.0%
8	本校の教職員は、学力向上のため指導方法等を工夫している。	5	16	3	0	0	20.8%	66.7%	12.5%	0.0%	0.0%
9	自分の子どもは、授業がよくわかり楽しいと言っている。	6	11	7	0	0	25.0%	45.8%	29.2%	0.0%	0.0%
10	子どもは家庭で本や新聞を読んでいる。	1	10	9	4	0	4.2%	41.7%	37.5%	16.7%	0.0%
11	学校は、感染症対策や防災教育等、命を大切に取る取組を積極的に行っている。	7	15	2	0	0	29.2%	62.5%	8.3%	0.0%	0.0%
12	子どもは将来に向けて、夢や希望を持っている。	5	9	7	2	1	20.8%	37.5%	29.2%	8.3%	4.2%
13	学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。	8	11	5	0	0	33.3%	45.8%	20.8%	0.0%	0.0%
14	子どもは地域の行事に参加している。	6	15	3	0	0	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%
15	学校は、「ふるさと学習」を推進し、ふるさとを愛する心を育てるように努めている。	4	14	5	1	0	16.7%	58.3%	20.8%	4.2%	0.0%
16	学校は、小中一貫校の特色をいかした取組を行っている。	6	14	4	0	0	25.0%	58.3%	16.7%	0.0%	0.0%
17	子どもは、目標をもって、部活動に取り組んでいる。	2	2	2	0	0	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%

2 考察

小、中共通の16項目の設問において、肯定的な回答（A、Bで回答）が8割以上であったものは6項目である。その中で最も肯定的な回答が得られたのは、設問11「学校は、感染症対策や防災教育等、命を大切にする取組を積極的に行っている」で肯定的な回答率は91.7%であった。今年度の重点目標④の「危機管理に努め、安心安全な学校づくりを全職員が一体となって行う」が高く評価された。危機管理では地震発生を想定した避難訓練だけでなく、不審者や火災、様々な事態を想定して、訓練を行った。地域の方と協力して災害時に避難所を開設する訓練を保護者とともに行ったことも肯定的な回答が得られた一因だと思われる。また、設問7「学校は教育方針、家庭への連絡、情報提供に努めている」も肯定的な回答率が87.5%と高く、重点目標④の「全職員が協働して児童・生徒理解に努め、家庭との連携を密にすることにより信頼関係を構築する」が評価された。どんな些細なことでも保護者との連絡を欠かさず、児童・生徒の情報を保護者と共有できたことが、このような評価に繋がったと考えられる。今後も児童・生徒を第一に考え、地域から信頼される安心安全な学校づくりに努めたい。

設問8「本校の教職員は、学力向上のため指導方法等を工夫している」も87.5%で、重点目標①の「ICT機器を活用した教育実践における『個別最適学び』を実践する」が評価された（ただし、アンケートには具体的にICTの活用に触れていないため指導方法の工夫等がICTと結びつかない可能性もある）。1年生から9年生まで全ての学年においてデジタル教科書を用いて授業を行ったり、タブレット端末を用いた授業を展開したりしたことがこの評価の一因だと思われる。今後は、さらに効果的にICTを活用する場を教員間で情報共有し、9年間の一貫教育の中で、どのようにICT機器を活用していくかを系統立てて考えていきたい。小中一貫校としての取組は、設問16「学校は、小中一貫校の特色をいかした取組を行っている」も肯定的な意見が83.3%と高いことから、一定の評価が得られており、今後も9年間を見通した取組を進めていきたい。

一方、肯定的な回答率が最も低かった設問10「子どもは家庭で本や新聞を読んでいる」は45.9%で5割に満たなかった。ICTの活用が進むにつれ、紙媒体の本や新聞を読まない子どもが増えてきたように思う。デジタル書籍の購入なども検討しながら、子どもたちの読書量を増やせるように尽力したい。また、来年度は木頭図書館とも連携して読書の推進も進めたい。

設問12「子どもは将来に向けて、夢や希望をもっている」も肯定的な意見は58.3%と低い結果となった。とくに学年が上がるにつれて、夢や希望をもっていない子どもが増えているように思う。来年度は重点目標にキャリア教育を取り入れ、子どもたちが将来の夢に向かって進路実現ができるようにしていきたい。

3 総括

令和7年度は徳島県初の小中一貫校としては9年目をむかえる。「ふるさと学習」を核とした小中一貫教育を一層推進し、小規模小中一貫校の強みを生かした教育活動を発展的に展開していきたいと考える。来年度も共楽運動会の実施をはじめ、地域の方に学校に足を運んでもらう機会を増やし、地域との連携を一層深めていくことで地域とともにある学校づくりに努めていきたい。